

# 偲 び 草

鵜 飼 隆 玄

(総本山知恩院執事長)

恒川先生との最初の出合いはもう三十五年も昔、既に亡き大先達の小西存祐元佛大学長先生が、まだ知恩院の教務部長在職中の時でした。先生は、当時、小西部長の下で百万遍知恩寺執事長の河合孝雅師と共に本山教化面の仕事をして居られたのであります。

当時は、祖山の困窮筆舌に尽せぬ程でありました。

先生は、河合孝雅師等と共に「一握り献米」運動を、京都近郊を中心に先頭に立って始められたのであります。

当時の祖山は、大師の献供の仏飼米にすら事欠く有様でした。偶々私も朝の輪番布教に登嶺さして頂き献供に欠ける実態を知って、祖山護持の為に蹴起する護法の志が今日の私を生んだと考えています。

当時の一般寺院もすべて衣食共に欠ける窮乏の時代で本山をかえりみる余裕すらなかったのであります。

幸にして農村地帯に住んでいた私は、恵まれた日々でありましたので、先生達のこの運動にも協力出来たのであります。

その運動の流れが今日尚生き々と滋賀教区野洲華頂婦人会連盟として、祖山護持活動として、物心両面の奉仕が実施されて居ります。

年間三百樽以上の漬物、こども奉仕団用の生野菜数トンの奉納運動が既に二十年以上に及び、伝統として遺こされて参りました。

又、今は亡き野島宣道上人、池田卓然上人、石原肇雄上人、千々和宝天上人等の大布教師等の協力を得て教化活動も実施

され、やがては野島上人勸誡の一般人の五重相伝、別時會を祖山に開催し、数百人の入行者を得て大成果をあげられ、第一回、第二回の入行者を結んで「五重同行會」を結成され、その支部として一般寺院でも五重入行者をすべて入会せしめる活動の母体とされたのであります。

知恩院諸講社の筆頭的勢力を誇る時もあり、同時に各寺院でも「五重同行會」を結成して、支部的役割を果たして今日に及んで居ます。一々祖山奉仕中の足跡を語るには及ばないでしょう。

然し、この奉仕活動の先達でもインフレ激しい欠乏と貧困の時代で、祖山の御手当だけでは支えきれない有様でした。

まもなく京都市役所に勤務され、社会福祉行政の草分け的役割を果たされて、停年退職後は一時平安養育院々長や浄土宗教化部長等もお願いしましたが、佛敎大学の社会福祉学科の拡充増強に伴って同大学敎授として招かれて就任され、御遷化の時まで大学にお勤めになりながら三月末に退職された間もないのに大学の研究室で倒れ、救急病院に収容後絶命されたと承りました。全く佛大杜福学科と生死を共にされたと言うべきであり、恒川先生らしい御最後になったと思います。

若き日より回転の早い理解力で、自主独往のマイペース主義で、実践力が強く、人によっては「アワテ者視」されたりする事すらあった程、俗に言う「話も手も早い人」でした。

理解力と決断力の優秀さが行動力を生んだと言うべきでしょう。

創生期の社会福祉学と、その実践者養成に大きい足跡を遺されたのです。

あのニコ／＼顔で飛び廻った先生の面影が瞳に浮かびます。自信敎人信の言葉通りの御生涯であったと思います。

未だ若いと言える年齢であり、今一步の延命長寿が保てたならば素晴らしい活動がして頂けたのにと考えます時、宗門人として淋しく痛恨限りなきものを覚えます。

先生、亦、間もなく九品蓮台上での再會を期しましょう。